

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第18回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第18回流域委員会				環境・利水 (生物・景観)	今日の方針の中で、河道内の樹木の景観について提案されていますけれども、私ども、河川管理者と住民とが関係でこれを進めているという一つの事例を発表させていただければと思います。 日野川（武生と鯖江の間）では、河道内樹木による水害が心配されている。そこで、日野川流域交流会では、昨年の12月に行政・専門家・住民が共に協議し、樹木の伐採方針を決定した。今後は、樹木の伐採方法、時期、区域等については現地での立ち会いの下、実施していくということで合意した。	日野川（武生と鯖江の間）では、河道内樹木による水害が心配されている。そこで、日野川流域交流会では、昨年の12月に行政・専門家・住民が共に協議し、樹木の伐採方針を決定した。今後は、樹木の伐採方法、時期、区域等については現地での立ち会いの下、実施していくということで合意した。	1801
第18回流域委員会				環境・利水 (生物・景観)	福井市内の河川水質の経年変化のグラフを御覧いただきますと、1カ所のBODの値がある時期に突出して高くなっていますね。これは、行政側としてはどういった認識をなさっているのでしょうか。	福井市内の河川水質で、平成10年に馬渡川のBOD値が30mg/Lに突出して高くなっているが、行政側の認識は？	1802
第18回流域委員会				環境・利水 (生物・景観)	トライアルとしては非常に好ましいことをなさったわけですが、もう少し回数を多く、それから時間的にも長くというのが私たちの気持ちなものですから、つい質問してみたくなりました。こういう望ましい河川になるなら、以前からもっと頻りにトライアルをしてもらいたかったなと思いました。	真名川ダムの弾力的管理試験は、河川環境の問題を考える上で、トライアル的には良い試みだと思う。	1803
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	福井県の年降水量や降水分布をみますと、日本の中でもとりわけ豊かな県だと思います。なのに水が足りない、維持用水もどうしようかという議論がここに出ているわけです。 現実に利水取水による流量減少の対応方針（案）のスライドの説明文のところで、河川管理者と利水者との間で開催される会議などを活用して、オープンな場で合意形成を図るよう努力してまいりたいと書かれているわけです。この委員会もオープンな場ですので、話し合いの経緯などをまとめて報告していただければどうか。	福井県は非常に水が豊かな県であるが、水が足りない状況を考えて使い方に問題があるのではないかと。問題を解決していくには、利水と環境の人たちがオープンな場で話しあっていくことが必要。	1804
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	十分ある水なので、利水している人や環境の人が話し合いをして、それぞれ節約するところは節約して使うようにする必要があります。 話し合いで水が足りないという結果なら、こういう場でもっと節約すべきなのか、池あるいはダムをつくるべきか、そういうことを話し合うべきだと思います。	水については、利水と環境の人たちが話し合いをし、それぞれ節約できるところは節約して使うことが必要。それでも水が足りない場合は、お互いにもっと節約すべきか、池あるいはダム等をつくるべきかの話し合いも必要。	1805
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	福井県は大変豊かな水というお話がございましたけれども、先ほどのスライドにもありましたように、上流部においては、その豊かな恩恵、川の自然そのものを受け取っていないわけですね。 上流部地域の流量、その実情をわかってほしいということと、先ほどの情報交換会について、これが本当に実施されているのかどうか、これは私もお聞きしたいと思っています。	福井県は大変水が豊かということだが、上流部においては、川の自然そのものの恩恵を受けていない。九頭竜川水系水利用情報交換会は、どのように実施されているのか？	1806
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	情報を交換するためのオープンな場ということで、九頭竜川水系水利用情報交換会がというお話を承って、これはとても大事だなと思いました。その設立の趣旨というんですか、このメンバーを見ますと、利水者の中に大野市が入っていないし、それから、水の利用に関しては、かつては確かに慣行水利権とも一つの水利権でということと絡んでいたのだと思いますが、漁業なんかのことにしても全然この中に加わっていない。また別にこういう場があるのかどうかはわかりませんが、こういうところの見直しもそろそろやっていっていただいて、さらに情報交換の内容が深まるようなという、これを見てそういう思いが非常にいたしたわけですね。	九頭竜川水系水利用情報交換会のメンバーには、大野市や漁業関係者が入っていない。情報交換の内容を深めるためにも、メンバーの見直しも是非行っていこう。	1807
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	例えば、資料-1にフラッシュ放流の話が出ています。「やりました。実験的にやっています」という。本当にフラッシュニュース的に、やりましたというの、たくさんいいことをおやりになっているわけですね。その後、「その結果、効果もよく出ています。自然が回復しています」と。その続きがないですね。その後、でも、どうしてできないか。 資料-2で御説明いただいたように、水利権があります。だから、「こんなようなことでなかなか進まないのですよ。それをどういうふうに行ったらいいと皆さんは思いますか」という説明もあわせて、一つの情報にして御説明いただくと、我々としては非常に考えやすい、皆さんも情報を利用しやすいと思います。	フラッシュ放流については、実施と結果はあるが、また水利権の問題は残っている。今後、この結果をどうにかしていくのか、議論を行えるような形で整理してもらおうとわかりやすい。	1808
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	利水で、これから20年の水利用についての計画を見据えている工夫して、地下水も利用したというふうなことで、質問なのですが、基本的には今のダムで利水は十分確保できる、水資源は確保できるという意識があるのかないのか。 また、現在あるダムで福井県の水は基本的には計画に足りると承っています。問題があるとすれば、渇水時に水をためておくという視点が若干そこには見え隠れするのですが、それについてはまたほかのところで議論があると思います。 利水について、例えば、足羽川ダムを今どれぐらい、とにかく利水として確保しなければいけないのかというところで、そこまでは考えていないのかどうかというところをちょっとお願いします。	基本的に既存のダムで福井県の水資源は確保出来るということではないのか？ 足羽川ダムでは、渇水時に水が足りなくなる現状を踏まえて、水利用を考えているのか？	1809
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	前回（第17回）の委員会のニュースが配付されていますが、そのまとめの5番目のところに、どなたかが「足羽川ダム導水案で計上されている600億のダムの規模は」というような質問をされたところで、「これは、多目的ダムという形でつくった上で、治水にかかわる部分のコストを抜き出して算出した」という文があります。 ということは、前提として一応多目的ダムというような、利水をも含めたことを考えておられるようにこれは見えるわけです。そうすると今のお話と少し違いが出てきますが、どういうことでしょうか。	前回提案された足羽川ダム導水案は、利水を含めた多目的ダムとして考えられていたのでは？	1810
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	水利権の問題というのは非常に歴史も深く、いろいろ大変なところがあるわけですね。福井県としましては、水と緑のネットワークという委員会の中で、貴重な農業用水を分けていただいて、そして、福井市内の河川にそれを供給するということが実際に実行の段階に入ってきているわけですね。非常に素晴らしいことだと思うのです。ですから、水を利用したいと思う方と水の権利を持っている方が垣根を越えているいろいろな話し合いをする場を積極的に設けていくということが重要かと思えます。	水利権の問題は非常に根が深い問題であるが、水を利用したい人と水利権を持っている人が垣根を越えて話し合いを行っていく努力が必要。	1811
第18回流域委員会				環境・利水 (親水・利用)	九頭竜川の利用の中で、最後に雪捨場の話が出ておりました。実はこれも気をつけていかないといけないのは、どっと降ったときに雪を川へ捨てるという形をとるわけですが、その雪自身も本当にきれいなものかどうかという点があるわけですね。 青森県の場合を例にとりますと、やはり直接河川に捨てるのではなくて、消雪、大きなプールみたいなところのために、きれいな水だけを捨てようということも行っているわけですね。ですからいろいろな、そういった水あるいは水質の改善ということにも少しづつ気を配って行って、改善できることから改善していくことが重要かと思えます。	九頭竜川の河川敷を雪捨場として利用しているが、水質に対して問題がないか配慮が必要。青森県の事例では、直接川に捨ててはならず、一時的プールに貯めて、きれいな水のみを放流するようにしている。	1812
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	水需要量のところを見ますと、既存の水源で少し足りないようなところも若干見受けられるのですが、この新規水源が河川水と地下水に分かれておりますけれども、この地下水が非常にわかりにくいと思うんです。河川と連続した伏流水なのか、もっと深い井戸のことをいっているのか。	平成22年の供給計画に示されている新規水源の地下水には、浅井戸と深井戸の区別がされているのか？	1813
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	福井市の場合、浅井戸と深井戸というふうな地下水を利用しております。それで、どの程度のところが伏流水なのかというのとはっきりしていないのです。現在、九頭竜川の堤防から距離的に70～100mのところ取水をしております。これは、浅井戸という形で取水をしております。深さが15～16m程度のところで水を取っております。ですから、これから地下水を開発ということで、浅井戸と深井戸の両方をあわせて開発していくと聞いております。 なぜ福井市が水道をおりたのかといいますが、どうしても水の需要が見込めないということがありました。それで、今現在も水の需要、経済情勢、社会情勢もあるのか知りませんが、ちょっと伸び悩んでおりますので、計画どおり地下水の開発が進むかどうかというのも、投資効率の問題もあって、当初ほどには地下水の開発も進んでいないように感じております。	伏流水については、どの程度の深さまで伏流水なのかかわかっていません。新規水開発の地下水は、浅井戸、深井戸両方をあわせて開発していくと聞いています。水の需要は伸び悩んでいるので、計画通り地下水の開発が進んでいくのかかわからない状況です。	1814
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	新規水源を開発することによって、既存の水源で、例えば、地下水の使用をブロック地域でできるだけ抑えて、将来の渇水に備えるために地下水の資源は温存して、その分を例えば河川水、ダムとかいったものに依存するというトレードオフの関係がここに示されているのか。そうだとすれば、現在供給している既存水源がどの程度減るのか。	新規水源を開発することによって、現在供給している既存水源がどの程度減少するのか？	1815

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第18回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第18回流域委員会				環境・利水 (親水・利用)	ごみの問題です。200万円もかけてごみを除去するというのがここに載っているわけですが、川がありがたいという反面、それを悪い方に利用することをもっと厳しく、立て看板でも「厳罰に処す」とか、各市町村のいわゆる行政の中、河川関係の行政の中にももっと働きかけて、もっときれいな、本当に川のありがたさというものをしみじみと感ずるためにはもっともっと、普通るとき、それこそ自分勝手な考えでなしに、もっと大きな気持ちでごみを絶対に捨てないというようなことをもう少し働きかけていく必要があるのではないかと思います。それも対策の一つとして、各市町村への呼びかけとか対策とか、もっと積極的にやっていったらどうかと思いました。	ゴミ投棄に対しては、行政がもっと働きかけて川のありがたさを広報することが、ひとつの対策だと思う。	1816
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	大野の場合、鳴鹿の堰が完成した後0.1m ³ /sということで水をいただいている。でも、それが大野の実際生活に使っている地下水に転用できない。要するに、川の水として、今みたいに表流水としての利用しかできない制限があるような話を聞いているわけです。せっかくいただいた水を転用できるような用途も含めて、同じ地下水利用という形、それから表流水の利用ということでも、その地域の実情によってかなりの違いがあると思うので、そういうところも含めて、地域の実態というものを把握した上でのこれからの検討の積み上げをお願いしたい。これもやはり法制度の問題と絡んでくるのだと思うのですが、水利権のことも含めまして、そういうふうな形での検討もまた今後やっていただきたいし、私たちも声を届けたいと思っています。	地下水や河川の表流水の利用は、地域の実情によってかなりの違いがある。水の用途転用や水利権の事も含めて、地域の実態把握が重要。	1817
第18回流域委員会				環境・利水 (利水)	水量が足りないということであれば、どうすればいいかということをお考えないといけないわけです。そのときに、実際に流れてくる水が少ないわけですから、農業用水として必要な水量をもうこれ以上減らすことができないということであれば、権利がある以上、それは減らすことができないわけですから、下流に流れない。解決策としては、もう少し取る量を減らすことができるかどうかという調整をするのか。あるいは、3月、4月と大きな水量が上流から流れてきているわけです。これはまさに雪が降ったものが解けて下流に流れてきているわけです。これを現状、足羽川としては貯留する機能がないわけですから、ある意味では無効に流れているわけですね。本来それを夏場にもう少し振り向けることができると、年間のトータルとしての環境は改善するかもしれないという可能性があることがわかるわけです。そういうことを考えて計画していくかどうか、場合によっては、そういう議論をしていく必要があるのではないかと気がするのです。	足羽川の流量が減少している区間の解決策として、次の点について議論することが必要。 湯水時に農業用取水を減らせるかどうかの利用者間調整 水を貯留する施設を建設し、水が無いときにその貯留水を使用等	1818